

# 海洋文化都市推進本部で進める主な取り組み

## 静岡市経済局

### 海洋文化都市推進本部

#### 《平成30年度新設》

みなとまちづくりを総合的・横断的に

「政策」「海洋イノベーション」「振興」「交流」  
の4グループ

#### 【物流促進】

国際航路の維持開拓  
中部横断道効果のPR

#### 【海洋産業イノベーション推進】

海洋研究の実用化  
(産学マッチング)  
海洋産業創出・集積

#### 【クルーズ船誘致】

寄港増加⇔受入充実  
の好循環の持続

#### 【海洋MICE推進】

学会・国際会議等の誘致  
海洋研究機関との連携

#### 【清水都心ウォーターフロントをはじめとする清水港臨海部の開発促進】

##### 清水都心地区のまちづくり

- 海洋文化拠点施設整備(市)
- クルーズ拠点整備(県)
- 遊歩道や緑地・防潮堤整備(市・県)
- まちなか・巴川周辺リノベーション

##### 周辺の臨海部まちづくり

- 新興津人工海浜
- 折戸湾周辺
- 三保地区

2019年 清水港開港120周年

新たな臨海部グランドデザインの発信

国際海洋文化都市・清水として、都市の活力・ブランド向上

# 海洋文化都市推進本部 組織構成



海洋文化都市推進本部 静岡市役所清水庁舎 5階

海洋文化都市統括監(局長級) 山本高匡

海洋文化都市推進本部長(部長級) 村松正章

海洋文化都市推進本部次長(参与級) 塩原 博

政策グループ(8人)

海洋イノベーション推進グループ(4人)

振興グループ(6人)

交流グループ(5人)

ソフト・ハード部局との連携 (兼務職員 13人)

企画局(3人)、清水区(1人)、経済局(2人)、  
都市局(6人)、建設局(1人)

海洋文化都市推進本部 26人 + 兼務13人  
(国、県、民間企業からの人材も在籍)



# 清水都心再生の方向性

平成29年2月 広報静岡 特集号 清水まちなかタウンミーティングで提示

## 新しい姿に生まれ変わる。清水都心はこうなる!



公共投資が先導し、民間開発を波及させる  
清水都心再生の方向性を具体化し、  
さらに清水港臨海部全体のまちづくりへ展開

# 清水都心ウォーターフロント地区での市の事業

## ①新清水庁舎建設

### 施設イメージ

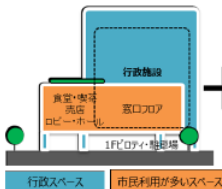
【清水庁舎】  
最大14,000㎡(市整備分)

【敷地の有効活用による  
収益スペース】

【合築・貸付又は別棟】

(例示)

- 他の行政機関
- 中心市街地に不足する生活機能の民間施設の誘致



## ③清水港線跡自転車歩行者道整備



## ④海洋文化拠点施設整備



クルーズ拠点整備(県)

防潮堤整備(県)

ウォーターフロント沿いの連続性

## まちなか回遊促進事業



街なか・巴川沿いの魅力向上

## ②みなとオアシス登録



## ⑤まちなかりノベーション



## 水辺ライトアップ (江尻～日の出、巴川沿い)



# 清水都心WF地区以外の臨海部開発可能性エリア

清水港周辺の  
多様な水辺エリア  
を活かし、つなぐ

新興津地区人工海浜・緑地周辺



三保地区

- マリンレジャー
- 地下海水活用陸上養殖
- CCRC 等の可能性

折戸湾周辺

折戸湾再開発プラン作成推進会議



清水都心WF地区

# 国際海洋文化都市・清水の将来ビジョン

「清水みなとまちづくり公民連携協議会」設立  
(平成30年4月)

会長： 前田英寿（芝浦工業大学建築学部教授）  
構成： 静岡銀行・静岡鉄道・清水銀行・鈴与  
清水港振興、清水埠頭、静岡県、静岡市

開発者目線を持ったまちづくりの検討を行い、グランドデザインや実行プランを検討・提案していく。



公民連携の視点からも提案

【港湾のビジョン(静岡県)】  
清水港長期構想の検討

【港湾動向を踏まえた周辺市街地のビジョン(静岡市)】  
清水港周辺臨海部グランドデザインの検討

「みなと・まち」  
一体の将来構想

2019年(開港120周年)  
での公表